

が問題なのかを聞きなおしました。

診療室に来ていただけるような方ではもちろんご自分で症状や訴

えを言っていただけなのですが、要介護状態の方ではそうでないことがあります。



歯科診療の中には、むし歯で穴が開いてしまい、見ればすぐに分かるというケースもあります。入れ歯の状態のように、とてもデリケートな表現をしなければならぬ時があります。例えば、「右で噛んだ時は問題ないけど左で噛むとすつと浮き上がる感じ」だとか「噛んだ時にすつと右側にずれていく感じ」だとか。そう

言われれば私たちも対応できるので、無言で座っている方や「なんか調子悪い」しか表現できなければ、僕

たちには何もできないのです。何が起こっているかわからないのですから。

入れ歯の治療に限らず、医療はやっぱりコミュニケーションです。訴えを正しく聞くのはもちろん僕たちの責任ですが、いかに的確に伝えるかも技術です。どうしても緊張してうまく伝えられないということもあるでしょうが（床屋の僕状態！）、あらかじめキーワードだけ頭の中に入れておいていただければ伝わりやすいと思いますよ。まあ、うちの診療室は緊張するほどすごいところでもありませんが。

セミナーのお知らせ

十一月八日（土）、信濃町の東医療保会館で「尊厳を守る在宅ケアとは」

というタイトルの一日集中セミナーを開催します。講師は、高次機能障害者へのサポートをされている池田敦子



さん、白十字訪問看護ステーションの秋山正子さん、フジモト新宿クリニックスの藤本進先生、そして僕です。僕が講師選定も任されていたので、本当に日頃から尊敬する実践家をお願いいたしました。ご興味がありましたらぜひご参加ください。きっと何かを得ることができると思えますよ。参加費は、一般5000円、学生3000円です。

ちなみに、セミナー終了後、講師たちを囲んでの懇親会（飲み会）も開催予定です。僕の企画には必ずあるんです！